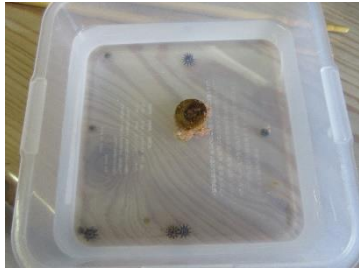


9月3日(火)に、サカサクラゲをたくさん育てている宮川さんから、旭小学校に、小さなクラゲとポリプをいただきました。



左の写真の真ん中にあるのがポリプで、ここから次々にクラゲが育っていきます。今朝生れたばかりのクラゲもいました。青く、小さく見えるものが、生まれて数日のクラゲたちです。

エサになる「コペポダ」(海産ケンミジンコの仲間の動物プランクトン)もそろえました。

このクラゲは、植物の光合成に近い働きで、栄養を補給するので、光も必要だということです。大きくなると20cmほどまでになるらしいです。油壺マリンパークからも引き合いがあるということです。

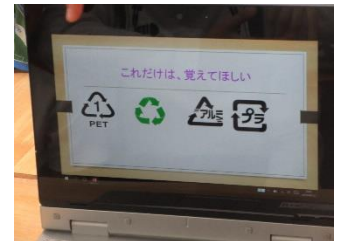
宮川さんは、ハナタツも飼育しています。(右の写真)水槽では、たくさんハナタツがのんびり過ごしていました。



9月12日(木)に、北区立王子第三小学校へ、海洋教育の授業を見学に行きました。この学校は、以前から海洋教育を進めていますが、海から離れたところで行われているところが特徴です。

5年生1,2組の合同授業(総合的な学習の時間)でした。グループ分けも、1,2組混合で、全部で16グループの発表がありました。前半8つのグループの発表(5分間)を他の8グループが順番で聞いていきます。ですから、発表する児童にとっては、8回のチャンスがあることになります。発表のたびに慣れてきて、表現力も高まっていくのが分かりました。

パソコン、タブレットを使用するグループもありましたが、紙芝居風にしたり、手書きの資料を用意するグループもありました。



発表内容は、ヒョウモンダコ、毒を持つ海の生き物、モズク、イソギンチャクなど海の生き物に関するものが多かったのですが、中には、離岸流や海水について調べたり、海のプラゴミの問題を取り上げているグループもありました。

最後に、お茶の水女子大の里浩彰先生が、「各グループの発表が素晴らしかった。この調べ学習で事実を知った状態から、自分たちの生活とのかかわりなど、海についてより深く考えてほしい」という講評がありました。私からも、三浦市の海洋教育について、簡単にお話しさせてもらいました。

授業後、校長先生や他の先生方ともお話しすることができましたが、熱心に海洋教育に取り組んでいるのが、よく分かりました。里先生が「事実としての海」から「意味としての海」(海と食生活、海と環境の関わり等、海が自分たちにとってどのような意味があるか)に進めて行くことが大切だとお話ししていたのが印象的でした。

(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで